



生成AIの導入と実践的な活用術

株式会社Cinematrico / 共同創業者 兼 COO 小澤 健祐 (おざけん)

小澤 健祐 (おざわ けんすけ) ●「人間とAIが共存する社会をつくる」がビジョン。ディップが運営するAI専門メディア「AINOW」編集長を務める。一般社団法人生成AI活用普及協会 協議員。1,000本以上のAI関連記事を執筆。著書『生成AI導入の教科書』。

■「作るAI」から「使うAI」へ

生成AIとは、ユーザーが要求する内容に基づいてテキスト、画像、音声などを自動的に「生成」する技術です。生成AIの登場は、企業が技術を取り入れる方法に革命をもたらしました。

従来のAI、特にディープラーニングなどの技術は、専門の知識を持つ技術者がプロジェクトを立ち上げ、大量のデータを処理して学習させ、特定のタスクを遂行できるように訓練したモデルを「作る」ことに焦点をあてていました。このプロセスは、高い専門知識を要し、数カ月から数年という長い期間と多大なリソースを必要とすることが一般的でした。

過去、AIプロジェクトは一部の専門部署、例えば「AI推進室」が中心となって推進されていました。これらの部署は企業内で中央集権的な役割を担い、AIプロジェクトの成功に必要なすべてのリソースを調整していました。しかし、このような組織形態では、AI技術の恩恵を企業全体に広げることには限界がありました。

ところが、生成AIが出現したことで、専門知識がない人でもAIを利用できるようになり、AI技術の利用方法が

「作る」から「使う」へと大きくシフトしていったのです。そのような状況下では、特定の部署がAIプロジェクトを推進するのではなく、組織全体でAIの導入を進め、全従業員がAIを活用できるような環境づくりを目指すことが重要です。これは、従業員が日常的な業務にAIを組み込むことを意味し、それには教育とサポートが欠かせません。つまり、企業は従業員がAIツールを使いこなすためのトレーニングを提供し、AIを活用した効率的な業務遂行を促進することが求められています。

AI技術を全社的に展開するためには、従来の中央集権的な「AI推進室」ではなく、各部門が協力して横断的に活動する組織体制が必要です。AIを用いた意思決定の迅速化、業務プロセスの自動化、顧客体験の向上など、ビジネスの各面での革新が可能になるからです。このような組織的な変革は、企業が競争優位を獲得し、持続可能な成長へとつながります。

■ 生成AI導入に必要なスキル

生成AIの普及に伴い、組織だけでなく、AI人材に求められるスキルセットにも変化が見られます。以前は、AI人材として成功するためには、高度なデータサイエンス

(表1) AIを現場で活用するために必要とされるスキル

現場知識 (ドメインエキスパート)

現場業務の深い知識は、生成AIを効果的に活用するために不可欠です。特定の業界や分野における専門知識を持つ人材は、そのドメインのニーズに合わせてAIの機能をカスタマイズし、最大の価値を引き出すことができます。

課題発見力

各現場における特有の問題を見つけ出し、それらを解決するための方法としてAIを適切に適用する能力も求められます。問題を特定し、その問題に最適な生成AIのソリューションを見つけ出し、適用する力が重要になります。

AIマネジメント力

生成AI技術を理解し、それを現場業務に最適な形で組み込むことができるマネジメントスキルも必須です。これには、適切なAIツールの選定、導入計画の策定、実装プロセスの監督、そして利用後の成果評価が含まれます。

の知識や洗練されたエンジニアリングスキルが必要でした。これらは、データを収集・処理し、複雑なアルゴリズムを開発・適用するために不可欠な能力でした。データの解析から予測モデルの構築まで、専門的なテクニカルスキルがAI分野でのキャリアを形成する上で中心的な役割を果たしていました。

しかし、現在では、AIを現場でどのように活用するかが重要視されています。ここで必要とされるスキルは(表1)の3つです。

これらのスキルは、従来のテクニカルスキルとは異なり、現場でのAIの活用を前提としています。従って、企業はこれらの新たなスキルを有する人材の育成に注力する必要があります。新しくAIの専門家を雇うだけでなく、各部門のプロフェッショナルがこれらのスキルを身に付けることで、AIの可能性を最大限に引き出し、ビジネスのさまざまな面で革新を促進することができます。

また、重要なのは生成AIなどのデジタル技術が代替しやすいハードスキル(専門スキル)ではなく、人間性などのソフトスキルの重要性が相対的に高まっていくことです。ソフトスキルには(表2)のようなものがあります。

これらのソフトスキルは、テクノロジーの進歩とともにさらに価値が高まると予想されます。なぜなら、これらは人間固有の特性であり、現在のところAIやマシンには真似できないからです。そのため、人間の働き方や企業が求めるスキルセットにおいて、ソフトスキルが重要な位置を占めるようになっていきます。

—— (表2) 必要とされるソフトスキル ——

コミュニケーション能力

AIは情報を処理し、特定の応答を生成することができますが、人間の感情やニュアンスを理解し、対応する能力はまだ限られています。人間は、非言語的コミュニケーションを含む、より複雑な人間関係を構築できます。

問題解決能力

一部の問題はアルゴリズムやデータに基づいて解決できますが、創造的思考や革新的な解決策を見つけるには、人間の直感や経験が必要です。

チームワーク

協調性や共感力は、効果的なチームワークを構築する上で重要です。人間は社会的動物であり、協力して作業を進める際の社会的複雑さを理解しています。

適応性

市場や職場環境が変化するにつれて、人間は新しい状況に柔軟に対応し、新しいスキルを学ぶ能力があります。

リーダーシップ

人間は他者を動機づけ、導くことができます。この能力は、共有されたビジョンを持ち、目標に向かって他者を統率することを含みます。



総合電機メーカーならではの
強みを掛け合わせて、社会課題の解決へいち早く。
三菱電機は、そんな思いのもと、
ITソリューションを進化させていきます。



ITソリューション

AI IoT ビッグデータ セキュリティ 電子認証

力を、掛け算。

三菱電機のITソリューション

www.MitsubishiElectric.co.jp/it/

三菱電機株式会社

■ 生成AI活用に必須の「現場課題」

生成AIは非常に強力な技術で、その活用は一見すると簡単なようですが、実は複雑です。生成AIを最大限に利用するためには、「課題」をベースに生成AIの活用を進める特有のスキルセットが必要とされ、高度なプロンプトエンジニアリング力が求められます。これは、生成AIに対して効果的な指示（プロンプト）を出すための能力です。質の高いプロンプトには、主に以下のような要素が共通して含まれます。

● 指示

生成AIに与えられる具体的なタスクや命令のことです。

● 背景

タスクの実行に関する補足的な情報や文脈のことです。

● 入力データ

生成AIがタスクを実行するために必要な情報や資料です。

● データの出力形式

テキスト、数値、リスト、表、グラフなどの様々な形式です。

このスキルは、単に文章を上手く書く能力だけではなく、業務フローを正確に分析し、マネジメントする能力も含まれます。これにより、AIが期待通りの結果を生み出せるよう、適切な指示を設計することができます。

プロンプトエンジニアリングでは、現場課題をベースに、課題解決につながるプロンプトの構築が重要です。また、生成AIを活用して課題を解決した具体的な成功体験を生み出すことも重要です。その鍵となるのは、現場

の課題を正確に把握し、それを解決するためのAIの活用方法を見つけることです。

現場の課題を収集する方法は多岐にわたりますが、以下にいくつかの方法を列挙します。

● インタビュー

直接現場の従業員に話を聞き、課題を特定します。

● アンケート調査

幅広い意見を集め、多くの人々の課題を把握します。

● 業務観察

実際の業務を観察し、効率化や改善が必要なポイントを発見します。

● データ分析

業務に関連するデータを分析して、問題点を明らかにします。

● ワークショップの実施

従業員が集まり、課題を共有し、解決策を議論します。特に有効なのは、ワークショップを通じて現場の課題を挙げてもらい、それをプロンプト化する取り組みです。現場の直接的な課題を把握するだけでなく、コミュニケーションを促進し、参加者にプロンプトエンジニアリングのスキルを教える機会にもなります。課題に基づいた生成AIの活用事例を社内で生み出すことに貢献し、結果的に課題ドリブなAIの活用を可能にします。実際の課題に即したAIの活用は、その効果を直感的に理解しやすくし、さらには、従業員のモチベーションを高めるとともに、組織全体でのAI技術の受容と理解を深めることにつながります。

NEC

Orchestrating a brighter world

NECは、安全・安心・公平・効率という社会価値を創造し、誰もが人間性を十分に発揮できる持続可能な社会の実現を目指します。